

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 唐津市立浜玉中学校 |
|-----|-----------|

|                  |  |
|------------------|--|
| 1 前年度<br>評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で行事や学習活動に制限が入る一年であったが、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価をいただけており、評価項目は概ね達成できている。</li> <li>・いじめ問題への対応については未然の防止のために指導を重ねている。保護者との連携をさらに深め、早い段階でのいじめの覚知、認知に努める。</li> <li>・コロナ禍において、昨年度に引き続き小中連携の実践がほぼできていない。来年度は学力向上を中心に据えた小中連携に力を入れていきたい。</li> <li>・業務改善・教職員の働き方改革については、少しずつ改善が進んでいるとはいえ、時間外勤務は依然として長い傾向にあり、今後一層の推進を図る必要がある。</li> </ul> |
|------------------|--|

|          |   |
|----------|---|
| 2 学校教育目標 | 持続可能な社会の創り手となる生徒の育成<br>《めざす生徒像》 豊かな心で、未来を切り拓く生徒 |
|----------|---|

|            |  |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | 1 学力の定着と資質・能力の育成(唐津市学力向上指定校)<br>2 心の教育(人権教育)の充実<br>3 いじめの早期発見・早期対応<br>4 キャリア教育の推進<br>5 地域とともにある学校づくり(いきいき学ぶからつ子事業) |
|------------|--|

| 4 重点取組内容・成果指標      |   |   |   | 5 最終評価      |   |         |   |
|--------------------|---|---|---|-------------|---|---------|---|
| (1)共通評価項目          |   |   |   |             |   |         |   |
| 評価項目               | 重点取組<br>取組内容  | 成果指標<br>(数値目標)  | 具体的取組   | 最終評価        |   | 学校関係者評価 |   |
|                    |   |   |   | 達成度<br>(評価) | 実施結果  | 評価      | 意見や提言   |
| ●学力の向上             | ○全教職員による共通理解と共通実践   | ○「唐津の学び」チェックシートの個人評価において、すべての項目の自己評価平均値を3.5以上                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員で「唐津の学び」チェックシートを共有する。</li> <li>・全教職員で、単元ごとの「ラーニングマウンテン」を作成し共有する。日頃から、授業参観を行い、生徒の頑張っている姿をFormsに入力し様々な視点から学びに向かう姿勢も共有する。</li> <li>・SDGsを意識した教育課程を編成し適切に実施する。</li> </ul> | B           | 「唐津の学び」チェックシートの個人評価において、すべての項目の自己評価平均値を3.5以上は達成できなかった。「唐津の学び」チェックシートの評価項目を更に意識できるようなクイズを行い、今後数値が上がることに努めたい。   | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況調査結果が佐賀県平均を下回っている。今一つ頑張ってもらいたい。</li> <li>・タブレットを持ち帰ってきており、課題に取り組んでほしい。</li> </ul>   |
|                    | ○教職員の指導力向上  | ○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とする。<br>○県学習状況調査結果の対県平均比を1.00以上                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の始めに「ラーニングマウンテン」を提示して、単元を通して身に付けたい力を生徒に示す。</li> <li>・授業の「めあて」を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。</li> <li>・新しい学習指導要領のねらいを具現化する教育活動及び学習評価を実施する。</li> </ul>         | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートの結果では、授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とすることができた。</li> <li>・県学習状況調査結果の対県平均比を1.00以上は達成できなかった。</li> <li>・今後も生徒が少しでも理解できる授業実践を工夫していくと同時に、県学習状況調査の結果は生徒の実態から少しでも向上できるように工夫をしていきたい。</li> </ul>  | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の評価がA・Bで大変良かった。</li> <li>・今後、少しでも生徒が理解できる授業を工夫していただきたい。</li> </ul>  |
| ●心の教育              | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動                                  | ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒70%以上  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施</li> <li>・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施</li> <li>・部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心がある生徒を育成する。</li> </ul>  | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和集会では、他者への思いやりや生命を尊重する心、平和を願うことができるよう、生徒会主体で平和集会を行った。</li> <li>・道徳は担当を担任と副担任でローテーションにし、確実に授業を行った。多くの先生で授業を行うので、様々な視点や考えのもとで教育活動ができています。今後もこの取り組みを続けていき、アンケートを実施する予定である。</li> </ul>   | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、道徳教育を通して、他者を思いやる生徒を増やして欲しい。</li> </ul>  |
|                    | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実   | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていて回答した教職員90%以上                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。</li> <li>・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。</li> </ul>                                     | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活アンケートについて、月行事に載せることで計画的に行うことができた。しかし、結果の報告が共有されていない事があったため、各学級実施後にPDF化したデータ管理を行うことを目指している。教育相談やQUTテストは計画的に実施することができた。アンケートや教育相談を行うことで、いじめの早期発見に繋がる場面もあった。</li> <li>・情報共有を密にし、管理職とこまめに事例の確認を行った。小さなことでも、被害生徒が嫌な思いをした事実があれば、いじめとして対応する方針である。</li> </ul>               | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止等の取り組みが学校側も生徒もBが多い。せめて、学校側はA評価が高い取り組みをした方がよかったのではないかと感じる。生徒は取り組んでいるという評価が高かったのは、学校側が頑張っていることだと思う。</li> <li>・中学校全体のイメージが悪くなるので、早期解決をしてほしい。</li> </ul> |
|                    | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。  | ●「学校生活は充実している」について肯定的な回答を80%以上にする。<br>●「将来の夢を持ち、その実現に向けて努力している」について肯定的な回答を80%以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々が抱える不安や悩み、問題などに適切に対応し、保護者の思いに寄り添い適切に支援するように努める。</li> <li>・職場体験や教育講演会等を通して、将来について考える機会を設ける。</li> </ul>   | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の夢を持ち、その実現に向けて努力している」に肯定的な回答をした生徒が83.7%であった。</li> <li>・隔週で行った教育相談部会では、各学年の気になる生徒を共有するだけでなく、SSFやSSWとの連携をとり、家庭が抱え込まないように対応することができた。また、不登校の生徒には授業をTeamsを使って配信したり、Teams面談を活用したりすることができた。来年度もタブレットを活用した取り組みを続ける予定である。</li> </ul>  | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来について考える機会が多いのは良いことだと思います。</li> </ul>  |
|                    | ○浜玉中三訓の徹底   | ○自らあいさつができる生徒の割合を80%以上にする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動で、生徒に自ら啓発を行わせることで、意識の高揚を図る。</li> <li>・生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組む。</li> </ul>   | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会では、年間を通して、浜玉三訓を意識するように集会や立腹放送等で呼びかけを行った。また、本部や専門委員会の取り組みの中で、三訓の意識高揚を目標として、チェックやアンケートなどを行った。また、ボランティア活動を頻りに行い、それに伴って挨拶運動も行うことで意識づけに繋げることができた。しかし、毎日継続して行うことについては、生徒の意見が分かれて実施することができなかった。今後どのようにしてより浜玉三訓を徹底していくのか、生徒が主体となって話し合いを行い、来年度の取り組みを計画していく予定である。</li> </ul> | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜玉中三訓については、教職員が思っているより生徒は実践しているようです。町であった時に、挨拶されたことは良くあります。ほめてあげる要素ではないか。</li> </ul>  |
| ●健康・体づくり           | 次の中から1つ以上を選択<br>①「運動習慣の改善や定着化」<br>②「望ましい生活習慣の形成」<br>③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」<br>④「安全に関する資質・能力の育成」 | ⑥全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残食をなくす。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、給食だより等で保護者へ向けでも情報を提供し、意識高揚と改善を図る。</li> <li>・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。</li> </ul>  | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月給食だよりを出し、保護者へ向けでも情報を提供している。</li> <li>・1日3回の食事をほぼ毎日食べている生徒の割合は、95.5%</li> <li>・食べ物の好き嫌いがあまりない生徒の割合が54%に対して残食については、学級によって差が見られるが少ない方だと感じる。給食指導について、感染症対策も含め、配膳係は手袋着用をすすめているが、給食エプロンを用いている当番活動ができていない学級が見られる。</li> </ul>   | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな朝食をしっかりと食べているようだ。</li> <li>・今後も、学校での偏食指導も重要だと思われ。</li> </ul>   |
|                    | ○(学校独自重点取組・任意)  | ○(学校独自成果指標・任意)<br>全国体力検査における体力合計点を全国平均値を目指す。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員を対象とした講習会や研修会への参加。</li> <li>・生徒の自発的な部活動に取り組む、外部コーチを活用するなど合理的・効率的に運営する。</li> </ul>   | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会や研修会には、可能な限り参加をしている。そこで受けた内容を、職員間へ共有するとともに共通理解を図っている。</li> <li>・現在外部コーチは3名の登録がある。各々が、合理的・効率的に運営するよう工夫している。</li> <li>・体力検査の結果については、ほとんどの種目で全国平均値を下回った。次年度の課題である。</li> </ul>   | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動も活発なので、体力向上につなげてほしい。</li> </ul>  |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減  | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動複数顧問制を効果的に活用する。</li> <li>・部活動終了1時間後に退勤する。</li> <li>・会議日は「ノー残業DAY(定時退勤日)」とする。</li> </ul>  | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動複数顧問制を効果的に活用することはできた。</li> <li>・部活動終了1時間後に退勤するまでには至っていない。</li> <li>・会議日は「ノー残業DAY(定時退勤日)」としているが、残業もあり効率的な職務の工夫が求められる。</li> </ul>  | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の仕事量が膨大だと感じた。</li> </ul>   |
|                    | ○(学校独自重点取組・任意)  | ○(学校独自成果指標・任意)<br>時間外勤務を1月60時間以内、年360時間以内にする。<br>年次休暇の取得を10日以上取得した職員の割合を70%以上       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務月平均60時間以下を達成できる教職員の割合を50%以上にする。</li> </ul>   | B           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・月が経過するにつれて、時間外勤務が少なくなっている。校務分掌の負担が多い職員や他職員の校務分掌をカバーしている職員もおり、時間外勤務になっている。</li> </ul>  | B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の仕事量が膨大だと感じた。</li> </ul>   |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |                    |  |  | 最終評価        |  | 学校関係者評価 |   | 主な担当者                                 |
|----------------------|--------------------|--|--|-------------|--|---------|---|---------------------------------------|
| 重点取組                 |                    |  | 具体的取組  | 達成度<br>(評価) | 実施結果   | 評価      | 意見や提言   |                                       |
| 評価項目                 | 重点取組内容             | 成果指標<br>(数値目標)                                 |  |             |  |         |   |                                       |
| ○特別支援教育              | ○個々の生徒に応じたきめ細かい対応  | ○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教職員70%以上             | ・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。<br>・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。                        | B           | ・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、個々の生徒の支援について共通理解を行い、支援の体制をとることができた。<br>・特別支援学級担任によって、生徒の気持ちに寄り添い、保護者とも密に連絡を取りながら、交流学級担任と連携して細やかに支援を行うことができた。 | B       | ・今後も、学校全体が一つになって生徒たちに対する支援体制を整え充実した学校生活を送ることができるようにしてほしい。 | 特別支援担当<br>①坂口先生<br>②清水先生<br>③井上先生(主任) |
| ○志を高める教育             | ◎キャリア教育の推進と情報提供の充実 | ◎夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合を70%以上にする。         | ・自己理解を深めさせるとともに、働くことの目的や意義について、教科横断的に取り組む。<br>・生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。<br>・キャリアパスポートを活用しキャリア教育の充実を図る。 | B           | ・職業調べを行い、将来自分が就きたい職業について何が必要で、どのような道を歩んでいくべきかを考えレポートにまとめることができた。<br>・高校調べを行い、自分の望ましい進路実現に向けて受験の仕組みや、高校の特色などを理解し次年度への準備を行うことができた。 | B       | ・近い将来への夢や目標を具体的に考える機会が多いと思います。                            | 特別活動担当<br>①古川先生<br>②清水先生(主任)<br>③大西先生 |
| ○小中・地域連携             | ○小中連携と地域連携の充実      | ○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教職員が70%以上にする。 | ・小中連携会議を実施して、小中連携を推進する。<br>・本校の方針を発信するとともに、全教職員が地域との協働の意識を高め、理想的な関係づくりを推進する。                                   | B           | ・小中連携会議を年間通して3回行うことができ、情報交換や連携組織の構築を図ることができた。<br>・虹の松原清掃ボランティアや能登半島地震募金活動への生徒の積極的な活動が見られ、「地域と連携し教育活動の充実を図っている」と答えた教職員が80%以上であった。 | B       | ・以前のように、地域を巻き込んで活発な活動を行ってほしい。                             | 小中連携担当<br>森戸先生                        |

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

|                |   |
|----------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題への対応について職員研修を積み、関係機関の指導を仰ぎながら再発防止や未然防止に努める。</li> <li>・全体を通してB評価が多かったのは、職員の意識も前年度より高くなり自己評価が厳しくなったことが考えられる。</li> <li>・学力向上を中心に据えた小中連携に取り組むことができた。また、単元テストやラーニングマウンテンを通して学力の定着を図り、全国・県学習状況調査の到達基準に達するように努める。</li> <li>・業務改善・教職員の働き方改革については、月が経過するにつれて時間外勤務が少なくなっているが、校務分掌の見直しを図りながら更なる改善に努める。</li> </ul> |
|----------------|---|